

編集後記

術前カンファレンスで日々感じるのは、患者の高齢化とそれに伴う併存症への対応の重要性である。整形外科手術の対象年齢は、この30年で大きく変化した。私が医師になった1990年頃には、80歳を超える患者に対して手術を行うことはまれであり、「この年齢では手術は難しいよね」と医師・患者・家族の間で自然に納得する空気があった。しかし、社会の急速な高齢化に伴い、この状況は様変わりした。現在では90歳代の患者に対しても積極的に手術が検討され、実施されている。実際、日本整形外科学会の手術症例登録(JOANR)によれば、大腿骨近位部骨折の手術では80歳代が最も多く、次いで90歳代が続く。人工膝関節置換術では70歳代が最多で、次いで80歳代と、いずれも高齢者が中心となっている。

こうしたなかで、併存症への対応は大きな課題である。80歳を超えて、糖尿病、高血圧、心肺機能低下、骨粗鬆症、認知機能低下といった合併症を全く有さない患者はまれであり、術後せん妄や誤嚥のリスク評価も不可欠となっている。主治医1人ですべてに対応するのは現実的ではなく、病院単位での多職種による周

術期管理体制の整備が求められる。私が所属する病院では、全例、術前に周術期支援センターを受診することが義務化されている。麻酔科医、看護師、歯科医、歯科衛生士、薬剤師、理学療法士、栄養士といった多職種による一括評価が行われ、リスクの把握と全身状態の最適化、口腔ケアが効率的に進められている。個別にコンサルトを依頼する手間が省けるだけでなく、評価の抜けもなく、患者にとっても時間の節約となっている。今後、さらに高齢患者の割合は増加することが確実であり、整形外科医に求められる役割も変化していく。手術の技術のみならず、全身管理とチーム医療を通じて患者のQOLを守る包括的な視点が、これからの時代には不可欠である。

今月号の特集で取り上げたテーマは倉敷中央病院の伊藤 宣先生にご企画いただいた「肘関節疾患治療の最近の進歩」である。この分野もエコーなどの画像診断、スポーツ障害の治療、関節鏡など、新たな診断・治療の著しい進歩がみられる。皆様の知識のブラッシュアップの一助になれば幸いである。

(中島康晴)

「整形・災害外科」第68巻 第9号(8月号) 2025年8月1日発行(毎月1回1日発行) 定価 3,080 円(本体 2,800 円+税 10%) 年間購読料金 定価 47,960 円(本体 43,600 円+税 10%) [年間13冊(臨時増刊号、増大号を含む)の誌代] [年間予約購読者に限り送料無料]	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03(3811)7165〔編集室直通〕 TEL 03(3811)7184〔営業部直通〕 FAX 03(3813)0288 www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 (株)文京メディカル TEL 03(3817)8036
--	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。